
puripuri2100.sty の使い方

～自作の L^AT_EX Style～

@puripuri2100

2018/7/23

はじめに

このパッケージは、プリアンブルに書く設定等を肩代わりすることを目的として作成されました。
デフォルトでいくつかのパッケージを読み込み、必要な設定を予め済ませます。
そのため、ある程度の文書であればプリアンブルでこのパッケージの読み込みを行うだけで対応できます。
管理は GitHub で行っています。

- <https://github.com/puripuri2100/myLaTeXstyle>

1 使用想定環境

1-1 L^AT_EX 周りの環境

TeXLive2018 以降のものでの使用が想定されています。

TeXLive2018 以降に含まれるパッケージを読み込んでいるため、TeXLive2017 以前のものを使用するとエラーが出ます。その場合は CTAN 等からダウンロードして配置してください。

W32TeX 等では確認していません。

1-2 エンジン

使用を想定しているエンジンは (u)pL^AT_EX と LuaL^AT_EX です。X_YL^AT_EX での使用は今の所一切想定していません。

1-3 クラス

使用を想定しているクラスは js***と ltjs***と bxjs***です。jlreq クラスの使用はまだ想定していませんが、将来的には対応したいと考えています。

2 読み込み

`\usepackage{puripuri2100}` とプリアンプルに書くだけで読み込まれます。オプションはありません。

3 LICENSE

改変・再配布等は自由に行って構いません。また、その際に著作権の明記は一切必要ありません。

しかし、これはあくまでも自分のために作成するものなので、これを使用することによる被害等に関しては一切責任を負いません。

4 読み込むパッケージ

このパッケージが読み込むパッケージです。これのすべてが無いと使えません。TeXLive2018 以降であれば標準で揃っていると思います。ない場合のために、CTAN の URL も書いておきます。

expl3	https://ctan.org/pkg/expl3
xparse	https://ctan.org/pkg/xparse
ifthen	https://ctan.org/pkg/ifthen

ifluatex	https://ctan.org/pkg/ifluatex
ifuptex	https://ctan.org/pkg/ifptex
luatexja	https://ctan.org/pkg/luatexja
luatexja-ruby	https://ctan.org/pkg/luatexja
luatexja-otf	https://ctan.org/pkg/luatexja
graphicx	https://ctan.org/pkg/graphicx
xcolor	https://ctan.org/pkg/xcolor
luatexja-fontspec	https://ctan.org/pkg/luatexja
tikz	https://www.ctan.org/pkg/pgf
longtable	https://ctan.org/pkg/longtable
hyperref	https://ctan.org/pkg/hyperref
arydshln	https://ctan.org/pkg/arydshln
pxrubrica	https://ctan.org/pkg/pxrubrica
otf	https://ctan.org/pkg/japanese-otf
pxchfon	https://ctan.org/pkg/pxchfon
ltjp-geometry	https://ctan.org/pkg/luatexja
geometry	https://ctan.org/pkg/geometry
scsnowman	https://ctan.org/pkg/scsnowman
float	https://ctan.org/pkg/float
musikui	https://ctan.org/pkg/musikui
url	https://ctan.org/pkg/url
amsmath	https://ctan.org/pkg/amsmath
amssymb	https://ctan.org/pkg/amsmath
wrapfig	https://ctan.org/pkg/wrapfig
overpic	https://ctan.org/pkg/overpic
ascmac	https://ctan.org/pkg/ascmac
tcolorbox	https://ctan.org/pkg/tcolorbox
mdframed	https://ctan.org/pkg/mdframed
enumitem	https://ctan.org/pkg/enumitem
makeidx	https://ctan.org/pkg/makeidx
bxtexlogo	https://ctan.org/pkg/bxtexlogo
fontenc	https://ctan.org/pkg/fontenc
titlesec	https://ctan.org/pkg/titlesec
fancyhdr	https://ctan.org/pkg/fancyhdr

5 追加するコマンド

このパッケージで新たに追加するコマンドです。

<code>\purizw</code>	Lua \LaTeX と (u)p \LaTeX の両方で通る全角幅です。
<code>\purizh</code>	Lua \LaTeX と (u)p \LaTeX の両方で通る全角の高さです。
<code>\purijafont</code>	日本語のフォントを変えるコマンドです。引数が 2 つで、1 つ目は明朝体のフォントで 2 つ目がゴシック体のフォントを入れます。
<code>\purimcdefault</code>	明朝体のデフォルトのフォントです。標準では KozMinPr6N-Regular.otf です。
<code>\purigtdefault</code>	ゴシック体のデフォルトのフォントです。規定は KozGoPr6N-Regular.otf です。
<code>\purigeometry</code>	オプション引数に geometry パッケージで使うオプションを入れてください。何も入力しないと pass になります。
<code>\purihypersetup</code>	必須引数は 2 つで、オプション引数があります。必須引数の 1 つ目には pdftitle を、2 つ目には pdfauthor を入れてください。オプション引数には <code>\hypersetup</code> で使うオプションを入れてください。
<code>\purichead</code>	fancyhdr パッケージで使うコマンドである <code>\chead</code> を決めます。既定は <code>\chead[]{}</code> です。
<code>\purilhead</code>	<code>\purichead</code> の <code>\lhead</code> 版です。規定は <code>\lhead[]{}</code> です。
<code>\purirhead</code>	<code>\purichead</code> の <code>\rhead</code> 版です。規定は <code>\rhead[]{}</code> です。
<code>\puricfoot</code>	fancyhdr パッケージで使うコマンドである <code>\cfoot</code> を決めます。既定は <code>\cfoot[--- {\thepage} ---]{--- {\thepage} ---}</code> です。
<code>\purilfoot</code>	<code>\puricfoot</code> の <code>\lfoot</code> 版です。規定は <code>\lfoot[]{}</code> です。
<code>\purirfoot</code>	<code>\puricfoot</code> の <code>\rfoot</code> 版です。規定は <code>\rfoot[]{}</code> です。

6 title と section のデザイン変更についてと追加コマンドについて

このパッケージでは、新たに title を出力するコマンドを追加した上で、そのデザインを通常の maketitle から変更しています。そして titlesec パッケージを使用して、`\section` と `\subsection` と `\subsubsection` のデザインを変更しています。機能としては通常のもので変わらないので問題はありません。

新たに `\purimaketitle` というコマンドを定義することで、title 部分のデザイン変更を行いました。また、title 関係でいくつかのコマンドを追加することで、選択の幅を広げました。具体的なコマンド名と、その役割

は下にあげておきます。

<code>\subtitle</code>	名の通り、サブタイトルを出力します。引数は1つで、サブタイトルを入れてください。
<code>\nonsubtitle</code>	サブタイトルを出力したくないという時に書きます。場所は <code>\subtitle</code> の直前あたりが丁度良いでしょう。
<code>\nonauthor</code>	著者名を出力したくないという時に書きます。場所は <code>\author</code> の直前あたりが丁度良いでしょう。
<code>\nondate</code>	日付を出力したくないという時に書きます。場所は <code>\date</code> の直前あたりが丁度良いでしょう。
<code>\purimaketitle</code>	デザインを変更し、上記のコマンドが使える <code>\maketitle</code> です。普通の <code>\maketitle</code> も使えますが、その場合には上記の title 関係のコマンドが全て使えなくなります。
<code>\puritoday</code>	今日の日付を出力するコマンドです。年/月/日という形式です。これは <code>\purimaketitle</code> でも <code>\maketitle</code> でも使えます。

他にこれといった変更は加えていないつもりですが、不具合を確認した場合は、修正を行うつもりです。